



会報

札幌くらぶ

2022年 2月 第96号

編集・発行/札幌くらぶ 〒064-0931 札幌市中央区中島公園 1-15 札幌事務局気付

ホームページ <http://sakkyoclub.net/sakkyoclub/>

札幌のアイデンティティを想う

札幌くらぶ会長 上田文雄

パンデミックを嘆き悲しんでも何も改善しないと分かってつ、せめてこれまでの社会の有り様や、自らの生き方について立ち止まり検証してみる機会にしようか。そして、今年はどうな面白いことをしましょうか。

新年早々1月4日、反田恭平さんのシヨパンコンクール凱旋コンサートを聴く幸運に恵まれた。誰もが感動する素晴らしい演奏技術と表現をすっかり堪能し、春から縁起が良いとほくそ笑んだ。久々に満席のキタラ、万雷の拍手の響きがキタラ大ホールをうならせた。彼が札幌生まれで、そのことに拘りを持っていて、そのことが分かって、早い時期にあのピアノコンチェルトを札幌との共演で実現されることを願うばかりだ。25年前に「札幌くらぶ」を創ろうとした時、札幌の演奏するキタラを満席にするのが夢だった。聴衆の音楽鑑賞エネルギーは演奏者のエネルギーに転化される。良い演奏を聴くためには聴衆のエネルギーが必要だと信じて、「札幌くらぶ」の活動の原点に立ち返り、聴衆の拡張運動を進めたいと改めて強く想う。



武満徹世界初演曲集

ブルの美事さである。そしてそれは、おおらかな北海道の自然風土と無縁なものではないように思う。また、北海道にとつて唯一のシンフォニー・オーケストラだという、人々の誇りによって支えられた、その得難い連帯感が、札幌の表情を生き活きとしたものになっているのだろう」と。

そして武満さんの札幌への拘りは、黒澤明監督の代表作である映画「乱」のサウンドトラック音楽を札幌が担当することになった。武満さんが札幌の魅力の源泉を「自然風土と人々の誇りと連帯感」と挙げられたが、私は自然風土、なかなしく「雪」に拘る。年間6メートルもの降雪量のある、世界に例をみない100万都市。そこで都市生活を営むには当然様々な工夫が必要となる。「雪害から利雪へ」雪まつりやオリンピック開催はもとより日々の除雪について隣家と折り合いをつけ、高齢独居者への配慮も怠らない。雪をめぐる市民の寛容

と協働から生まれる創造性は人々の間に連帯感を生み、そのことに誇り (civic pride) を抱く。こんなに大変な街なのに、市民の95%がこの街が好きだといいい、これからもずっとこの街に住み続けたいと答えるのがその証左だ。そんな街の人々が支え続けてきた大切なオーケストラなんだ札幌は、と私は思う。もつと私たち聴衆のエネルギーを札幌に、頑張ろう。

1月29日、オミクロンに負けずに第642回定期演奏会が開かれた。雪深いキタラに足を運ぶ聴衆の数は、大ホールの約半

数位であつたらうか。伊福部昭の「ヴァイオリンと管弦楽のための協奏風狂詩曲」は山根一仁さんの実にエネルギーシユなヴァイオリンによって強烈に私の胸を打った。釧路市幣舞町で生を受け音更小学校時代にヴァイオリンを買い与えられ独習された純粋道産子の伊福部昭さんのこの曲は、私が生まれた1948年に初版が作曲されたという。戦死者への鎮魂、怒り、様々な思いと共に、生まれ育ったアイヌモシリの風土が醸し出すエネルギーが激しいリズムの中に潜んでいる、と感慨深く聴いた。東京公演でも演奏するという。

是非、北海道の札幌ならではの伊福部昭を届けてきてほしいものだ。そして、札幌でもっと伊福部作品を武満作品と共に定期的に取り上げてほしい。60年の歴史の上に札幌のアイデンティティとオリジナリティを明確にするために。



ヴァイオリン: 山根一仁 指揮: ユベール・スターン

ギターを出ると、まっ白でほんわりとした札幌の美しい雪道、今しがた心を満たした札幌サウンドを反芻しながらふたりゆつたりと歩いた。

(写真協力) 札幌交響楽団

演奏会を楽しく聴くために

八木 幸三 (札幌くらぶ顧問)

3月~5月 定期 hitaruシリーズ定期

第643回 定期演奏会

3月12日(土) 17:00

13日(日) 13:00

指揮 ピエタリ・インキネン

フルート 工藤重典

■ステーンハンマル

序曲「エクセルシオール」

題名を聞くと、ギターで何度



© 土居政則

工藤 重典

もリサイタルを開催している弦楽四重奏団を想起するが、日本語では「高みに向かって」や「天の高みに昇らん」、「いと高きところ」等と訳される。この曲はステーンハンマルが1896年に作曲したもので初期の作品に属する。題名通り、希望に溢れた未来に向かって情熱を燃やし続け、高みに向かって進まんとする若きステーンハンマルの思いが反映している。実際、譜面の至る所で「情熱的に」という指示表記が見られ、穏やかに奏でる箇所であつても何処か「情熱」に向かうエネルギーを内包しているかのように音楽が次から次へと湧き上がるように描かれている。



© Takayuki Yoshida

ピエタリ・インキネン

この曲は作曲者にとって2作目の協奏曲で、前作のヴァイオリン協奏曲と同じく2楽章制をとっている。室内乐的な作品で、フルートとトランペットをオーケストラに用いていないという楽器編成上の特徴があり、1本だけのトロンボーンがフルートと対峙し、やかに活躍するなど、フランス作品にはない独特の雰囲気がある。ニールセンはコペンハーゲン管楽五重奏団のために協奏曲を作曲する計画を思いつき、最初に完成したのがこのフルート協奏曲である。

■ニールセン

フルート協奏曲

■サラネン

ヘリックス(2005)

シベリウス音楽院でホルンと

第9回 hitaru 定期

4月14日(木) 19:00

指揮 リオネル・ブランギエ

ピアノ リーズ・ドウ・ラ・サール



リオネル・ブランギエ

© Simon Pauly

作曲を学んだエサール・ベッカ・サロネンは、現在フィルハーモニア管弦楽団の首席指揮者・芸術顧問を務め、ロサンジェルス・フィルハーモニックの桂冠指揮者でもある。彼が2005年に初演したこの曲の題名は「螺旋」という意味らしく、渦を巻いて中心に向かって昇華していくイメージを巧みに表現している曲だ。現代曲だが、耳に馴染みやすい作品である。

■ラヴェル

ピアノ協奏曲

この曲は、「モーツァルトとサン・サーンスの協奏曲の精神で書いた」と作曲者自身が言っているとおりの伝統的な3楽章形式でつくられている。しかし、ロマン主義や民俗主義が内包されて



リーズ・ドウ・ラ・サール

© Hane Gallois

いると同時にジャズの影響も感じられる。ラヴェルは1928年にアメリカ演奏旅行をし、指揮者として、また作曲家として高い評価を受けた。この経験が作品に影響しているのは確かである。『ラフンデーインブル』を書いたガーシュインが、ラヴェルに会い作曲のアドバイスを求めたとき、ラヴェルは「私からあなたに助言できることは何もない」と答えたと言いが、むしろこの曲を聴くとラヴェルがガーシュインから影響を受けたのではないかと思ってしまうくらいだ。

■ラヴェル

優雅で感傷的なワルツ

ラヴェルは、この曲をシュエベルトを手本に作曲したと述べている。シュエベルトの「34の感傷的な円舞曲」と「高貴な円舞曲」を彼なりに意識しながら作

■ストラヴィンスキー

「火の鳥」組曲(1919年版)

ストラヴィンスキー三大バレエ音楽の最初の曲である「火の鳥」は、ロシア・バレエ団のディ・アギレフの委嘱で書かれた。まだ新人だったストラヴィンスキーは、バレエ界の大御所からの依頼にかなり奮闘し、振付家のフォーキンとも緊密に連絡を取り合いながら作曲に励んだ。今回演奏されるのは、演奏会用の組曲としてつくられた第2版で、2管編成ながら豊かな色彩感を持って神秘的に描写されている。哀愁をおびた「王女たちの rond」の旋律は実に耽美で、

「カスチエイ王の魔の踊り」は作曲家初期の原始主義的雰囲気

第644回 定期演奏会
4月23日(土) 17:00
24日(日) 13:00
指揮 広上淳一
ピアノ デビュー・ラーンキ

武満徹

群島S.

ストックホルム、シアトル、そして瀬戸内海の島々の美しい景観からインスパイアされて楽想が紡がれたという。その島々のイニシャルが偶然「S」であることが、この題名の由来である。楽器編成とその配置は独特で、クラリネットのステレオ効果が聴きどころになる。



広上淳一

©Masaaki Tomitori



飯島隆

デビュー・ラーンキ

ている。事実、若々しく、荒々しい男らしさが全編にみなぎり内容的にも著しい進歩を遂げている。第1楽章の第1主題からベートーヴェンらしく、発展の可能性を豊富に蔵し、続く第2主題は実に優美だ。緩徐楽章は語りかけるようなピアノのモノローグに始まり、恍惚とした管弦楽の歌が続く。そして第3楽章はピアノと管弦楽が一体となり煌めくような歓びを爆発させていく。

ベートーヴェン

ピアノ協奏曲 第3番

ベートーヴェンの5つのピアノ協奏曲の中で唯一短調で書かれた第3番は、前2曲に比べ、交響曲第3番同様、作曲者が大きく飛躍したことを象徴する作品だ。彼自身、前2作よりもこの曲が自信作であることをライプツィヒの出版社宛ての手紙で書いていく。

R・シュトラウス

交響詩「英雄の生涯」

リストを創始とする交響詩の頂点となるのがこの曲である。それまでにシュトラウスは6曲の交響詩を作曲しているが、リストに比べ素材や標題に依じて、それぞれの形式、主題の扱い方に独自性をみせて音楽を作り上げていく。この曲の「英雄」とは作曲家自身を指すと言われているが、彼は具体的には説明していない。音楽の内容から推測するならば、自らの半生を描いたというよりも、作曲家としての理想像を表現しているのかも

しれない。シュトラウスは自分の交響詩について「ただ音だけで真実を表現し、言葉ではただ暗示するだけ」と語っているが、この大編成で奏でられる単一楽章の大曲から聴き手独自の英雄像を創り出すことも一興である。



マティアス・バーメルト

© Yasuo Fujii

第645回 定期演奏会
5月28日(土) 17:00
29日(日) 13:00
指揮 マティアス・バーメルト
ピアノ アンヌ・ケフェレック

ヘンデル

「水上の音楽」第2組曲

22年度定演のテーマ「水」にぴったりの題名を持つ「水上の音楽」は、英国ジョージ1世が川遊びの折、ヘンデルに船上での演奏を企画させた折の作品。舞

モーツァルト

ピアノ協奏曲 第27番

後年ウィーンに移ったモーツァルトにとって、それまでの権力の庇護から独立するためには、予約音楽会による収入が必要であった。その演目にピアノ協奏曲が大きなウエイトをしめている。1784年から86年の3年間に作曲された12曲のピアノ協奏曲は、まさに彼の絶頂期としての作品が居並ぶ。その中でも最後のこの協奏曲は、バロック期の様式を保ちながら、他の協奏曲に比べて、より精巧に書かれている。終楽章は、最晩年にも関わらず春を告げるような生命力に溢れた明朗な楽想が心を揺さぶる。

(写真協力 札幌交響楽団)



© Liliroze, Art&Brand

アンヌ・ケフェレック

楽員さんに興味津津

㊹

はぜもと あかね

ヴァイオラ奏者

櫛本朱音さんに聞く

♪ 小2で聴いた初生演奏

出身は福岡県の北九州市です。大学に入るまでの18年間を過ごしました。とても住みやすいところで、街の感じが札幌と似ている部分もあると感じています。

り、名前も知っていたヴァイオリンをやってみたいと思い、習い始めました。

♪ 気力と体力の大学生活

小学5年生のときに地元のジュニアオーケストラに入りました。最初はかっこいい団服や楽器しそうな合宿に憧れて入ったのですが、だんだんみんなで演奏するのが楽しいと思うようになりました。オーケストラになると他の楽器にも興味が湧き、中学では吹奏楽部でフルートを吹いていました。本当はオーボエ

エカコントラバスがやりたかったのですが、自分の楽器はありませんでしたし、学校の楽器も

足りなくて担当させてもらえませんでした。高校は普通科だったので、毎日勉強の課題が多くて大変でしたが、文化祭や体育祭など高校生らしいことをたくさん出来て楽しかったです。

♪ あの日できなかつた演奏会

小学2年生のときに学校の体育館で芸術鑑賞教室があり、初めて生で弦楽四重奏を聴きました。その時4人が弾く楽器の中でそれまでに見たこともあ

ヴィオラを初めて弾いたのは大学に入ってからです。大学3年生のときに岡田伸夫先生のもと、副科でヴィオラを習い始めました。

大学時代はとにかく慌ただしい毎日でした。生活費を工面するためにアルバイトもたくさんしていました。特に札幌のオーディションを受ける前は、日付が変わる頃まで居酒屋でバイトをして、それから早朝までカラオケで練習する日々が続いてい

岡田先生のところに通い初めて3ヶ月くらいした頃、先生から「北海道に行ってみないか?」と言われてました。旅行かな?と聞いたら、札幌のオーディションを受けないかという話でした。二つ返事で受けることにしました。

その年の12月にオーディションを受けました。ヴィオラを弾き始めてまだ間もなく、コンクール等も受けたことがない、ただの学生でした。岡田先生からは「オーディションではそれを吹き飛ばして、聴いている人が目を見張るくらいの演奏をしなければ」と常々言われていました。本当に死にものぐるいで練習しましたし、その頃先生に言われたこと、教わったことは

ふくよかで温かいヴィオラの音



©K.Seki

プロフィール

1996年福岡県生まれ。8歳よりヴァイオリンを始めて、桐朋学園大学音楽学部へ入学。在学中よりヴィオラを始める。第5回ヴェルデ音楽コンクール金賞並びにエムアロー賞。第19回大阪国際音楽コンクール全国大会入選。これまでにヴィオラを岡田伸夫、ヴァイオリンを濱田道子、廣木菜穂美、三木妙子、石井志都子の各氏に師事。室内楽を漆原啓子、磯村和英、菊地知也、名倉淑子、加藤真一郎の各氏に師事。6ヶ月間の試用期間を経て、2019年10月1日付で札幌交響楽団に正式入団。

2018年9月、オーディションの前に一度エキストラで札幌の演奏会に出演することになったのですが、札幌に着いた日の夜に胆振東部地震が発生してしまいました。札幌に知り合いが1人もいなくて心細かったのですが、団員さんたちがとても親切にしてください

て、より一層札幌に入りたいたいという気持ちが強くなりました。地震の混乱で演奏会は結局中止となり、私がエキストラで演奏することになっていた曲のリハーサルも15分で中断となりました。



2歳の頃「弟と自宅にて」



小学校 5 年生の頃
「ひなまつりコンサート」

札幌くらぶの皆さんの活動は
会報で拝見していますが、札幌
の演奏会をより楽しもうとして
くださっているのがすごくあり
がたいなと思っています。
音楽以外のことは、コロナ
禍に入ってからテニスをはじめ

指揮者と同じ目
で演奏会が出来
たときはとても
感慨深かったで
す。2019年9
月の名曲シリー
ズ『今度こそ！鈴
木秀美』という演
奏会です。そこで
演奏した「ドヴォ
ルジャークの交
響曲第8番」は、
鈴木秀美さんの
新鮮なアイデアが盛りだくさん
で、とても楽しかったです。

♪ ゴルフそして美味しいお店

オーディションの1年後に今
度は札幌のメンバーとして、あ
の地震で中止になった時と同じ

間が長いので、体を動かすこと
がしたくなります。
あと、美味しいお店を開拓す
るのも好きです。グーグルマッ
プ

♪ 自分だけの音の追求を

オーケストラ以外では室内楽
をもっと勉強したいなと思っ
ています。機会があればセミナー
等にも参加したいですね。あと
はやはり、ヴァイオリンに転向して
あまり時間が経っていないこと
もありソロを弾いたことのある
曲が少ないので、コツコツとレ
パートリーを増やしていきたい
と思っています。
ヴァイオリンはヴァイオリンと似
ているようで、ちゃんとヴァイオ
ラらしい音を出そうとすると難
しい。最近ようやく少しずつ、
「らしい」音が出せるようにな

担当/中居・村山



『今度こそ！鈴木秀美』の演奏会

プやインスタグラムで夜な夜な
リサーチしています。札幌ほと
にかく美味しい食べ物がたくさん
あるのがうれしいです。空気
や水がおいしいから食べ物も美
味しくなるのでしょうか。
札幌の人たちは、バスや電車
内で座席が優先席しか空いてい
なくても座らない人が多いこと
に驚きました。子どもからお年
寄りまで、そういった思いやり
を持った人が多いのはすごく素
敵ですね。
北海道は広いのでまだまだ未
知の部分も多いですが、これか
ら存分に満喫していきたいで
す。

2021年度 楽譜支援金 贈呈

今年度も先日(1月17日)札
響くらぶから札幌へ「楽譜支援
金」50万円を贈呈いたしました。
例年であれば「札幌くらぶ
サロン」の場を借りて、サロン
参加の皆さんとともに目録贈呈
を行うところなのですが、今年
は1月22日に予定されていた
「サロン」が延期となり、それ

ができませんでした。
購入された楽譜は一覧表の通
りですが、2022年度の定期演
奏会または名曲コンサートで使
用されるものばかりです。
札幌ライブラリアンの中村大
志さんのお話によると、ハイド
ンの「戦時のミサ」は札幌初演の
ため楽譜を持っておらず新規に
購入したものの、ベートー
ヴェンの「ピアノ協奏曲
第4番」はソリストが使
用する版に合わせて、新
版にリニューアルしたそ
うです。ドビュッシーの
「海」は多数の版が存在
するのですが、11月の
定期では「Breitkopf」の
新版で演奏すること
です。武満徹の2曲ほど
ちらも小編成の曲で、「群
島S」は特殊な楽器配置
が特徴の曲だそうです。

2021年度 札幌くらぶ楽譜支援金 支出内訳

作曲家	曲名	楽譜代 (含消費税)	備考
1 ハイドン	戦時のミサ	64,262 円	2022/10 定期
2 ベートーヴェン	ピアノ協奏曲第4番	44,682 円	2022/ 2 名曲
3 ドビュッシー	海	90,860 円	2022/11 定期
4 武満徹	雨ぞふる	154,000 円	2023/ 2 定期
5 武満徹	群島S.	172,425 円	2022/ 4 定期
合計		526,229 円	

担当/村山

※上記の一覧表は一月定期演
奏会のプログラムに掲載さ
れたものと内容が一部異な
っていますが、後日変更され
たものです。

第14回JOFCC総会延期の経過報告

日本プロオーケストラファンクラブ協議会(JOFC)は登録10団体ありますが、総会はそのうち6団体の持ち回りで開催しております。2020年度の第14回総会は山響ファンクラブ(山響FC)の主催で開催されることが前年の仙台総会で決定されました。山響FCは実行委員会方式での準備を進め、2020年7月11日・12日の開催を予定して、東京五輪の開催と重なり宿泊などの混雑が予想されることから、早めの2月4日に各団体に連絡しました。

しかし、同年初めから拡がりだしたコロナウイルス感染症は、非常事態宣言が発令されるに至り、そのため山響FCは延期を決定して、5月5日に各団体に連絡しました。

その後、再開時期を模索していましたが、コロナ感染の勢いは収まらず2020年度内の開催は難しいと判断しました。翌年にかけてコロナウイルスは第3波、第4波と感染の波を繰り返し、さらにはデルタ株に置き換わり第5波となって全国的に感染が拡大していきま

できるのではないかと期待しておりましたが、新たにオミクロン株という変異株が発生し、新たな不安要素がでてきました。これが不安だけで終息し、無事開催できることを切に望むばかりです。

また、コロナの感染が収束せず、総会開催が難しくなってきたことは、ZoomなどのWeb会議システムを利用して、幹事会や総会の開催も模索していこうと思いましたが、幹事会は問題な

嬉しい「第九」の前のもう一曲

札響くらぶ副会長
JOFC事務局長
武藤義典

12月11日(土)「札響の第九」を久しぶりにキタラで聴いた。いつもはPプロロックの最前列で合唱団の後ろ姿を見ながら聴いているのだが、今年はP席は合唱団の席にされていた。コロナが収まりかけてきたからか、「第九」を聴かなければ年が越せないとの思いからか、会場はほぼ満席であった。

二三年前「札響の第九」ではメインの「第九」に先立って、短め

のいい曲が演奏されている。2015年の新実徳英「古代歌謡―荒ぶる神・鎮める神を皮切りに、ヴィヴァルディ「四季(春・冬)」、モーツァルト「交響曲第9番」、モーツァルト歌劇

いとしても総会ほどの程度の方々がPC環境を整えて参加できるか今のところは推測ができません。実施できるか否かを会員団体に照会、確認してWeb総会開催も並行して考えていこうと思っています。

「皇帝テイトの慈悲」序曲、三善晃「オーケストラのためのノエンス」と続いて、昨年(は)ベートーヴェン生誕250年)にちなんで、序曲「レオノーレ」第3番、そして今年(は)ヨハン・クリスチャン・バッハ「シンフォニアニ長調 作品18-4」。この曲は「札響(当時の名称は札幌市民交響楽団)第1回定期演奏会」で演奏された曲らしい。「札響創立60周年を意識した選曲に違いない。

私はこの露払い的に演奏される曲を楽しみにしている。「第九」のほかにもう一曲聴けるという喜びに加えて、そのあとに続く「第九」への期待を大きく増



(写真協力 札幌交響楽団)

「札響の第九」(2021年12月11日)

歌声はすばらしかった。「合唱用マスク」の有無は実際には歌声にあまり影響がないのかもしれない。しかし視覚的にはやはり「くぐもり声」を想起させてしまい、残念であった。

コロナが収まりかけてきたとはいえ、まだまだオミクロンや第6波の懸念もある。「マスク」を着けて歌っていることをとつても、合唱団の人数が六十数名で以前の約半分であることをとつても、まだまだ元通りとはいえない。「キタラで以前と同じように第九を聴けると思った、私の期待は性急にすぎた。

演奏が終わるとすぐさま、待ちきれなかったように盛大な拍手が沸き上がった。鳴りやまない拍手にソリストが何度も呼び出されたのはいつもの風景であるが、そのひとときが盛大だった拍手の中には声にならなかった「ブラボー」が多量に含まれているように感じられた。

会員/村山英朗



山形総会の会場に予定されている「やまぎん県民ホール」

ピアノトリオに魅せられて

1月21日ピアノ三重奏団「トリオイリゼ」のリサイタルが、Kittaraの小ホールで開かれました。ヴァイオリンの赤間さゆらさん、チェロの小野木遼さん、ピアノの水口真由さんによるピアノトリオで、「新進演奏家育成プロジェクト」リサイタル・シリーズ「SPORO 23」にピアノトリオが初めて選ばれた演奏会です。

最初のモーツァルトのピアノトリオはピアノ協奏曲を想わせる曲で、水口さんの華やかなピアノ、ヴァイオリンの美しい音色と優しく包み込むチェロが印象に残りました。

2曲目はチェリストにとって外せない名曲、メンデルスゾーンのピアノトリオ、いわゆる「メントリ」です。チェロのやるせない



(写真協力 公益社団法人 日本演奏連盟)

い旋律で始まりますが、小野木さんはビブラートを効かせつつ輪郭のハッキリした深々とした音を奏で、ヴァイオリンに引継ぎました。赤間さんは堅固な演奏で応えチェロと融合し、そこに水口さんの華麗なピアノが加わり、鮮やかで引き締まった「メントリ」が展開されました。緩徐楽章で赤間さんは時おり目をつぶり、甘い旋律を美しく歌い、続くスケルツォは妥協を許さないアンサンブルの妙技を聴かせてくれました。そしてフィナーレでは息を呑む躍動感に圧倒されました。

メインはブラームスのピアノトリオです。第1楽章の冒頭、赤間さんは全身を使って音を出し、重厚な響きが会場の空気を一瞬のうちに変えました。この日一番の聴きどころは第2楽

章でした。曲の出だしで刺すような音を放ち、ヴァイオリンとチェロが静かに哀歌を奏でました。ノスタルジックな旋律が会場を埋め尽くし、冷たくほの暗い響きは凍とした雪あかりの街を想わせました。札幌弦セクシヨンならではの演奏で、聴きごたえ十分でした。第3楽章は一糸乱れず軽快に駆け抜け、終楽章に突入しました。チェロの低音は地を這うように、ヴァイオリンは鮮烈な高音で天を突き、ピアノは安定感を保ちながら重厚で輝かしい音を響かせました。情熱的でダイナミックな演奏が繰り広げられ、アンサンブルは熱狂し最高潮に達して喝采となりました。アンコールとして、ブラームスの「5つの歌曲」より「メロデーのように」を演奏し、チェロの穏やかな音色で締めくくりました。

武田芽衣さん 粋なラフマニノフを奏でる

札幌チェリストの武田芽衣さんによるラフマニノフ・プロのリサイタルが開かれた(1月31日、ふきのとうホール)。ラフマニノフのチェロ作品を生で聴ける機会は少なく、吹雪のなか足を運び、武田さんの演奏を初めて直に聴くことができた。



Vc 武田芽衣さん・Vn 田代裕貴さん
Pf 高美希子さん

彼女は笑みを浮かべて登場したが、1曲目の「チェロのための2つの作品」の演奏が始まると表情が変わり、ラフマニノフ特有の哀愁に満ちたエキゾチックな旋律を陶醉した表情で聴かせた。2曲目の「悲しみの三重奏曲第1番」でも、曲の情感により顔の表情も変化し、全身を大きく揺らし、弓がうねるように動き、普段オケの演奏では見られないその姿はジャックリーヌ・デュ・

プレを彷彿とさせた。スウェーデンから帰国した田代さんのヴァイオリンは武田さんとの強い信頼を感じさせる演奏であった。ピアノの高さんは緻密なアンサンブルでチェロをくつきりと浮かび上がらせ、素晴らしいリサイタルピアノニスト

した。札幌ブレイヤーによる室内楽は技術力もさることながら個性があつて魅力的です。なかでも「トリオイリゼ」は推しです!

※イリゼ (Irissee)
「光彩をおびた・虹色に輝く」という意味のフランス語。

会員/高木誠一

▼今年こそはとの願いも空しく、コロナウイルスは手を変え品を変えはびこる。その上に雪は降る降る。まだまだ引き籠りの生活が続く。まるで冬眠人間。マスクの中で顔はたるむ、運動不足でお腹もたるむ、やんぬるかな。(麗)

スタッフの声

であることを認識させた。前半の曲はピアノ・パートに重きを置いて作曲されたためか、チェロの細やかな動きを聴き取ることが出来なかった。しかし、後半のグリエール「8つの小曲」と最後に演奏された「チェロソナタ」では細部が浮き出た。決して派手ではなく、押し付けることもない演奏は清楚で気品のある印象を与え、フルニエを想わせるところがあった。それでいてスケール感もあり、音楽が自然に私の中に入り込んできた。とくにG線とD線の音色と響きが、何とも言えぬ良い音で心に留まった。アンコールとして「ヴォカリーズ」をトリオで演奏し、幕となった。

素敵な演奏ありがとう。

会員/えんど・ピン

▼今年冬も厳しい冬でした。私は冬が嫌いですが、冬に絡んだ名曲「ヴィヴァルディの「四季」より「冬」、チャイコフスキーの交響曲第1番「冬の日の幻想」、そしてシベリウスの楽曲はどれも冬を連想。冬を耐えれば、明るい春。その希望を胸に、皆さま、お体に留意してお過ごしください。(C3)